

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	6 / 1960 / 40-42
タイトル	県下理科研究発表会
著者名	山内美弥子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

県下理科研究発表会

1年 山内 美珠子

10月2日澄みきった秋空の下で青森県理科研究発表会が青森県立青森工業学校で行なわれ、本校生物部からは

青森市におけるセフィルス

武田 昭 永

ルリタテハの生活史

幸 村

校内空中細菌調査

山 道 彪 郎

とこの3項目を発表することになりました。

開会式は10時頃から始まり会長その他の挨拶など一通り終わった後、化学、地学、物理、生物、中学生の部等、各部門ごとに教室に入りました。なお生物は植物と動物部に分かれました。各教室には、私大から来た審査の先生方が一人ずついて一つの発表(約5分間)が終わった後質問をしたり又批評を加えたりしていた。

この大会には、大湊、野辺地、弘前工業、弘前中央高校、田名部、青森工業、青森中央、本校生物部とこの八校が参加し、始められた。

動物部門の方では

大湊における白鳥の研究	大湊高校
指紋調査	弘前中央
青森市におけるセフェルス	青森高校
ルリタテハの生活史	〃
本校における血液調査	大湊高校
金魚における呼吸量	〃

植物部門の方では

口腔内のバクテリアの所産菌みがきに対する抵抗性について	野辺地高校
校内空中細菌	青森高校

その他、中学生の部門とか化学物理の方がいましたが省略致します。

植物部門の方は、聞きに行かなかつたので、はつきりした事はわかりませんが、聞いたところによりますと、我部の発表は時間内に大体まつまり、弘大の先生も驚くほど知識が深く、専門家の様だと大変ほめていたそうです。その結果動物部門が二位と言う好成績をおさめた事は大変嬉しい事だと思います。

この調査から、私は本校の空気のよごれ、衛生上から見て決して良いとは言われないことと、いまさらに細菌と言うものを自覚させられました。

動物部門において我部から二項目が発表されたわけではありますが、先にルリタテハの生活史についての幸村さんが発表しました。次は武田さんの番です。表題は、青森市におけるセフェルスです。赤、緑、青と光のかげんで変色する。しじみ珠すなわちセフェルスが箱に行儀よく並べられみんなの前に出されて時、感嘆の声ももれたくらい美しい蝶を前に熱弁の結果本校の成績はルリタテハの生活史の方はおしくも破れましたが、青森市におけるセフェルスの方は、動物部門が一位という成績をおさめました。

この発表のある2、3日前は、全部員が大変な忙しさでした。ケマートを書くもの、間違つたところに紙を張っているもの、マジックがないかと言う者もあり、夜おそくまでかかりました。その甲斐もあつたのでしょうか、動物、植物部門とも好成績をおさめた事は、部にとつても大変嬉しい事と思います。私は、動物部門の方に最初から居たわけですが一番興味があつたのは、血液調査と指紋調査です。これらはきわめて簡単なように見受けられるのですが、なかなか困難な調査だと思います。なんと言つても調査の対象は人面です。

人面が協力してくれなければ出来ない調査です。指紋の方は、女ばかりの学校でしたので統計は

女ばかりしか出ていませんでしたが、男の方の統計を取ってみるともおもしろいと思います。

この発表会に参加して感じた事は、皆んな非常に注意深く大自然に目を傾け、そして疑問に思ったところはどしどし研究し、少しでもその疑問な所を解こうと努力している事です。

これは何時の世界にも必要な事だと思います。私は今までたい並んで過ごした事を残念に思いました。でも少しは知識を得ましたがクーベルタンは言いました「勝つことより参加する事だ」と。クラスの人全部が各々のテーマを持ち、研究し、その結果を、この発表会に参加し発表したら、どんなによい事かと、日も早くその日の来るのを望まずにはいられないのです。